

新宿通信

NO. 116

- 最後までやりきろう！
- 進路資料室より
- 共通テストチャレンジの見方
- 3年ゼロ学期のスタート
- キャリアガイダンス

近道と回り道と

英語科 町田 宗繁

新宿という街を歩けば、とてつもない数の外国人の姿を見かけます。電車やコンビニ、飲食店でも英語が聞こえてくる時代です。私の父は何故か英語教育に熱心で、高校の時にはアメリカにホームステイに行かせてもらいました。学年最下位に近かった私ですが、その経験が楽しすぎて英語が好きになり、一から学び直しました。

私には小学生のころからはっきりとした夢がありました。教員になることです。人の成長に関わる仕事をしたい。その手段として英語を選び、大学に進学しました。当時の日本では「英語ができる」というだけで一定の評価を受けていました。周囲から一目置かれ、アルバイトでも個別指導の講師をしていました。その頃の私は少し天狗になっていたと思います。「英語ができる」「自分は通用する」と、根拠のない自信を抱いていました。教員になると決めていた私は、教育に関係する経験を積むことが最短距離だと考え、他の分野のアルバイトや活動にはほとんど目を向けませんでした。

大学卒業後、私はオーストラリアへ留学しました。ところが、そこで待っていたのは、日本での感覚が一気に崩れる体験でした。街を歩けば、当然英語が話せる人ばかり。英語は特別な能力ではなく、生活するための前提条件でした。周囲には、英語が堪能なうえに、専門的な技術や実務経験を持った人が大勢いました。一方の私は、英語と「教員志望」という軸だけで生きてきたため、海外でそのまま活かせる経験や技術がありませんでした。私が通っていた大学を知る人間もいません。その結果、アルバイトすらなかなか見つからず、ようやくありついたレストランのホールスタッフの仕事では毎日失敗ばかりでした。思っていた以上に自分は何も持っていないことを痛烈に思い知らされました。

天狗の鼻が折れた私。「こんな自分が、日本で英語を教える立場になっていいのだろうか」。そんな思いを語学学校の先生に打ち明けました。すると、その先生はこう言いました。「それをわかっていること自体が、あなたの強みじゃないか」。英語が特別ではない世界を知っているからこそ、英語を学ぶ側の不安や現実が見える。その言葉に、私は救われました。

この経験を通して、私は英語を「ゴール」ではなく「ツール」として捉えられるようになりました。同時に、ツールを使うための経験や技術を十分に持っていなかった自分にも気づき、改善のための努力を始めました。早くから進路を決めていたことで、結果的に視野が狭くなっていたのだと思います。

最短距離を見据え、目標に向かって真っすぐ突き進む。それはそれで一つの考え方ですし、実行できることは素晴らしいことだと思います。ただ私のように、そうして歩んできた道をふと振り返ると、その真っすぐさがつまらなく見えてしまうこともあります。役に立つと思ってやってきたことが予想以上に非力で、無駄だと思えて嫌々やった経験が、後になって自分の考え方や進む方向を決めてくれる大きな力になることもあります。目標を持ち、努力して能力を磨くことは絶対に必要です。しかし多くの能力は、それ単体で人生を保証してくれるものではありません。スティーブ・ジョブズが言うところの「ドット」をたくさん打っておかないと、そもそも振り返って繋げることもできません。だからこそこれからも、できるだけ多くの世界に触れ、人との出会いを大切に、自分の可能性を広げてほしいと思います。

○最後までやり切ろう！

3年生は、私立大学の一般入試はほぼ終わり、合格発表の結果が出た人もいることでしょう。また国公立大学の前期試験も終了しました。

思ったような結果が出ず辛い思いをしている人がいるかもしれません。もっと勉強していれば、と後悔している人もいるかもしれません。もちろん、大学受験は大きな経験です。ただ、ゴールではありません。受験に向けて頑張った日々は無駄になることはなく、不完全燃焼で感じた後悔も今後の人生の糧となります。第一志望ではなかった大学で、運命を変える何かに出会えるかもしれません。今の状況を見つめ、前向きに！

3月12日からは後期試験が始まります。昨年度は後期試験でも多くの合格者が出ています。最後まで諦めずに挑戦しましょう。

○進路資料室より

まだ赤本を借りたままの人は、忘れずに返却してください。受験勉強を仕上げていく段階で、各大学の過去問は何よりの練習になったと思います。最新の入試問題は大学HPやインターネット等でも閲覧できますが、意外と古い過去問を入手するのは困難なので、赤本は本当に役に立ちます。後輩のために、赤本の寄付もお願いします。

○共通テストチャレンジの見方

1年生、2年生とも全員共通テストチャレンジを受験しました。結果はそれぞれだったと思いますが、皆さんはまだまだ伸びます。全国平均点と比べて、冷静に自分の得点を受け止めましょう。

振り返りをする際には、現在の自分の知識の抜け漏れを確認し、進級前に復習をしておきましょう。共通テストでは難しい知識ではなく、教科書を本質的に理解しているのかが問われます。基礎基本を大切にしましょう。

これから、何点伸ばせるかが重要です。来年取りたい点数を意識しながら今まで以上に授業、家庭学習を大切に過ごしてほしいと思います。

○3年0学期のスタート

2年生のみなさん、よく言われることですが、受験学年としての「3年0学期」はすでにスタートしています。来年の共通テストまでもう1年ありません。

焦る必要はありませんが、「受験はまだ先のことだ」と先送りする余裕もありません。日々の一步一步を大切に積み上げていきましょう。

1、目標を定める

目標を定め、その実現化のための計画を立て、それを日々実行することが大切です。予定通りに進まない時は立ち止まって計画を修正することも必要ですが、それでも構いません。目標実現のための「計画」と「実行」を始めてください。「計画」は「自分との約束」とも言えるでしょう。

2、受験勉強は貴重な経験

受験勉強というと、何か暗くて辛いというイメージがつかまっていますが、それは違います。皆さんも学ぶことの楽しさはこれまでに経験しているでしょう。分からないことが分かる喜び、問題が解けた時のスッキリ感！大学受験のように勉強に没頭できる機会は、人生にそうはありません。楽しみながら、思いっきり勉強して今後の人生につなげていきましょう。

3、バランスのとれた力を

受験勉強という特別な勉強があるわけではありません。受験では高等学校の授業で学ぶすべてのことが試されます。教科や科目という仕切りはありますが、例えば「現代文」や「英語の長文読解」の入試問題にはあらゆる教科・科目の内容が取り上げられています。また、学力だけでは不十分です。まる2日間に亘る共通テストでは体力と集中力がないと話になりません。体育や部活動で鍛えた体力と精神力が役立ちます。

4、先輩たちを参考に

様々なメディアで受験勉強にはこれがおススメ！などの情報があふれていますが、同じ高校で、同じような日々を送ってきた新宿高校の先輩方の受験体験を聞くこと以上に参考になるものはありません。3月には合格速報会がありますので、先輩たちの奮闘を自分のものにしてください。

〇キャリアガイダンス

2月4日(水)の6・7限に、1年生対象のキャリアガイダンスを実施しました。その目的は、社会においてそれぞれの立場で活躍されている先輩方の貴重な体験談を伺い、生徒ひとりひとりが自分の将来の夢や進学へのイメージをより確かなものとし、これからのあり方について考えていくきっかけとするもので、例年実施している行事です。今年度も同窓会の全面的なご協力を得て、様々な分野で活躍されている諸先輩方13名をお招きし、様々な演題でお話をしていただきました。このような機会に後輩のために積極的に協力くださる「繋がり」も、新宿高校の強みです。80回生が、将来は講師として後輩達と向き合うことを期待しています。

当日は6限と7限にそれぞれ異なった講座を受講しました。各会場では、熱心にメモを取ったり、積極的に質問をしたりする姿が見られました。今後の自分の進路に思いを馳せることに止まらず、今の自分の生活が将来へと繋がっていくのだということを実感する機会となってくれば嬉しいです。

今年度の講師を務めてくださった先輩方と演題をご紹介します。

佐野 良雄	先輩 (24回生)	『グローバルに生きる、グローバルで仕事をする』
石川 裕	先輩 (30回生)	『文系?理系?お金儲けしたい?気ままな生活を送りたい?』
中越 一統	先輩 (31回生)	『公認会計士の業務と魅力』
入澤 武久	先輩 (36回生)	『合格しやすくなった司法試験～合格すれば、無限に広がる世界』
金子 博行	先輩 (42回生)	『医師の理想と現実』
駒形 昭子	先輩 (43回生)	『都庁を技術で生きる』
関嶋 政和	先輩 (44回生)	『AI(機械学習)を用いた創薬手法の開発～スパコンとAIで挑む新しい薬作り～』
須田 健太郎	先輩 (48回生)	『広告のひみつ』
原田 将史	先輩 (48回生)	『寝ても覚めても建築』
庄司 匡宏	先輩 (50回生)	『世界の貧困と闘う仕事』
椿本 弥生	先輩 (50回生)	『赤点高校生から教育学部研究者へー迷ったらおもしろそうなほうを選ぶ』
小出 アキラ	先輩 (57回生)	『声を仕事に! アナウンサーとは?』
大坪 桃	先輩 (66回生)	『理系の進路選択と化粧品研究者のしごと』

先輩からの言葉

まずは、夢を描くことから始めてみませんか!

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟 選手強化部長

24回生 竹下 次郎

「将来は、海外で仕事をやってみたいなあ」

「あんな素敵な人が働いているところで私も働いてみたい」

まずは、夢を描くことから始めてみませんか!そして、そんな夢を描くきっかけは、ほんのちょっとしたことから。

子どもの頃、鉄棒で大車輪ができるようになりたくて、高校入学後すぐに体操部に入部。毎日体操の技を習得することだけに情熱を燃やしていた私。ある時、体操部顧問のたった一言が私の心に火をつけた。「竹下、ロシアの女性はとびっきり可愛いぞ。この前行ってきた世界選手権もめちゃくちゃ美人だった!」当時体操競技国際審判員を担当していた顧問から聞いたこの話で、私は漠然とロシアに行ってみようという夢を描き出した。大学入学後、夢を叶えるために第二外国語でロシア語を選択し、代々木にあったロシア語専門学校にも通いだした。そして、ロシアに行く資金を貯めるため塾講師のアルバイトを始めた。自分の部屋に世界地図を貼り、赤鉛筆で印を付けながらロシアのどこに行こうかと、妄想

しては日々眺めていた。大学3年生の時に、イルクーツク大学で開催されたロシア語35日間セミナーに参加し、ロシアに行くという私の夢は叶った。今から思えば、夢を叶えるために自分の脳がどうすればよいか私を自然に導いていた。

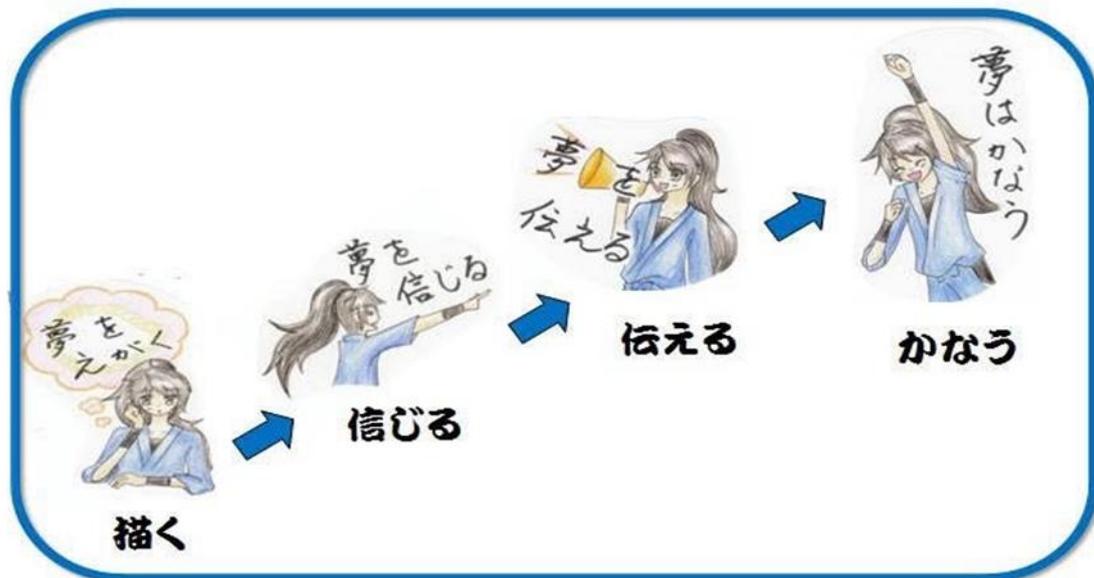
大学卒業後、精密機械メーカーに勤務し、商談のためモスクワ滞在中にあるレストランで見た光景が、私の新たな夢を描かせてくれた。生演奏に合わせて多くの男女が踊っている中、ひととき華麗にワルツを踊るカップルに目を奪われた。「なんと美しいダンスだろう。私もあんなダンスが踊れるようになりたい！」新たな夢を描き出した私は、帰国後すぐに新宿にあるダンススタジオに毎週日曜日に通いだした。しかし全くの素人の私は、リズムも分からない、ステップ（足型）も覚えられないといった落ちこぼれだったが、ダンスが踊れるようになりたいという夢を叶えるために、ひたすら練習した。自宅近くの公園に行って一人でステップを練習し、仕事が始まる前に会社の体育館で音楽を聴きながら練習した。その後、ダンススタジオでめぐり逢った妻と一緒に競技ダンスに挑戦し、夢中になった。

競技選手引退後は、社会人や中学・高校生にも社交ダンスの楽しさを広めたいという夢を描き、指導員、審判員の資格を取得した。現在は、ジュニア・ユース強化選手のコーチとして海外で毎年開催されるダンス世界選手権に帯同し、夢を叶えつつある。

私が人生で得たことは、まずは、夢を描くことから始める。そうすると、その夢を実現しようと自ら行動していく。そして夢が実現するととても嬉しくなる。嬉しくなるから、もっと夢を実現しようと思い、自分の周りの人に夢を伝える。たくさんの方が応援してくれるから、また夢が叶う。これを私は「夢を叶える法則」と呼んでいる。

皆さんも「まずは、夢を描くことから始めてみませんか！」

夢のかなえ方！



(同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)

※今後の予定（進路関係）

- 3/9(月)10(火) 2学年全統共通テスト模試
- 3/23(月) 合格速報会